

INFORMATION *Circular*

JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■ご挨拶	江口吾朗	1
■幹事長を辞任するにあたって	塩川光一郎	2
■事務局をお引き受けするにあたって	長濱嘉孝	3
■DGDの編集主幹を終えるにあたって	片桐千明	3
■DGDの編集主幹をお引き受けするにあたって	星 元紀	5
■日本発生生物学会第27回大会のお知らせ	井手宏之	6
■国際発生生物学会第12回大会に出席して	小林 悟	9
■公益信託・成茂動物科学振興基金助成金の決定について	平本幸男	10
■日本学術会議だより		11
■研究会のお知らせ		13
■会員異動		14
■賛助会員		15
■賛助会員入会・広告掲載のお願い		16

NO. 76

December 1993

日本発生生物学会

〒444 岡崎市明大寺町字西郷中 3 8

基礎生物学研究所 生殖研究部門

会 長：〒 444 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
 基礎生物学研究所 発生生物学研究系 形態形成研究部門
 江口吾朗（電話 0564-55-7570）

D G D 編集主幹：〒 060 札幌市北区北10条西8丁目
 北海道大学理学部動物学教室
 片桐千明（電話 011-716-2111 内線 5298）

1994年より：〒 227 横浜市緑区長津田町4259
 東京工業大学生命理工学部
 星 元紀（電話 045-922-1111 内線2481）

D G D 編集幹事：〒 724 東広島市鏡山1-3-1
 広島大学理学部遺伝子科学
 嶋田 拓（電話 0824-24-7446）

事 務 局：〒 444 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
 基礎生物学研究所 発生生物学研究系 生殖研究部門内
 （幹事長） 長濱嘉孝（電話 0564-55-7550）
 （庶務幹事） 田中 実（電話 0564-55-7552）
 （会計幹事） 吉国通庸（電話 0564-55-7551）

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込5-16-9
 学会センター C21
 財団法人 学会事務センター
 日本発生生物学会担当係（電話 03-5814-5810）

日本発生生物学会への入退会，住所・所属変更，会費納入，および出版物（D G D，イン
 フォメーション・サーキュラーなど）の郵送については，上記の日本学会事務センターに書
 面でお問い合わせ下さい。

ご 挨拶

1994年は、私の日本発生生物学会会長としての最後の年であります。過去3か年、会員の皆様の暖かなご協力とご助力に支えられまして、学会としての従来の事業をかりうじて維持することができましたことにまず深く感謝いたします。

1993年5月に福岡で開催されました本学会第26回大会に象徴されますように、日本の発生研究の歩みは着実であると申してよく、その成果の多くが国際的に高く評価を受けておりますことはたいへんよろこばしいことであります。しかし乍ら、このような日本の発生研究の進展とは裏腹に、学会の運営は、その財政的基盤の脆弱性が主因ではありますが、年を追うごとに困難の度を増しつつあります。DGDの国外販布がドル建てとなっておりますために、近年の円高で大きな収入減を生じ、歳入が減少する一方、出版経費をはじめ諸経費の増加によって歳出が増し、1994年度中にしかるべき対策を講じることが緊急課題となっております。

さて、DGDは歴代の編集主幹の並々ならぬご努力によって、質量共に発展しつつあり、まことに喜ばしく、たとえ経費が重みましても、発生生物学領域のより優れた国際学術誌に育て上げていくことが、今や大多数の会員の意志であります。私といたしましても、単なる学会の機関誌としてではなく、より開かれた質の高い学術誌にまでその内容を高めねばならないと考えております。そこで、先に会員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見を踏まえ、より有効な刊行の在り方を検討し、1994年度第1回運営委員会でご協議いただきまして、1995年度からそれを実現させたいと考えております。それにいたしましても、このような学会の財政状況下で、会員の皆様から寄せられますDGD基金は誠に貴重でありまして、この基金が本学会の維持に少なからぬ貢献をもたらしましたことに改めて深く感謝いたしますと共に、今後共より一層のご支援を賜りますよう切にお願いいたします。

会員の皆様は既にご承知かと存じますが、DGD編集主幹は、1994年1月から片桐千明先生から東京工業大学の星元紀先生に交替となり、Editorial Boardにつきましてもいくらかの改革がなされます。また、学会幹事につきましては、1993年10月を以ちまして、幹事長を塩川光一郎先生から基礎生物学研究所の長濱嘉孝先生にお替りいただき、学会事務局は基礎生物学研究所生殖研究部門内となりました。新しく編集主幹をお引き受けいただく星先生、新幹事長長濱先生、及び新幹事諸先生には、今後たいへんお世話になることと存じます。

1994年度の第27回大会は、所を変え仙台市で開催されます。現在鋭意準備が進められている由、大会委員長を快くお引き受け下さいました東北大学井出宏之先生から伺っております。より多くの会員の皆さんが参加され、日頃の研究成果を公表下さると共に、積極的にご議論下さることを願っております。

最後に、第26回大会を成功にお導き下さいました九州大学山名清隆先生をはじめ、安増郁夫前会長時代から1993年9月までの長期に亘り、幹事長をお努め下さった東京大学塩川光一郎先生及び幹事の諸先生、また、たいへん労多きDGDの編集主幹として絶大なご努力を惜しまれなかった北海道大学片桐千明先生に心より深く感謝いたしますと共に、今後共、会員の皆様のより一層のお力添えを切にお願い申し上げます。

1993年12月

会長 江口 吾朗

幹事長を辞任するに当って思い出すこと

塩 川 光 一 郎

この度、発生生物学会の事務局を基生研の長濱先生にバトンタッチすることができまして、やっと肩の荷がおりたとホッと致しました。同時に、これといった大きなトラブルも無く、なんとか2期・4年間で過ごすことができましたことを会員皆様に感謝致しております。また同時に、新幹事長として、会長江口先生のすぐ近くで活躍されます長濱先生に御苦労さまですが、よろしくお願い致しますと申し上げたいと存じます。

思い起こしますと、平成元年、東京にまだ何もわからないままひとりポツンと居りましたところ、安増会長から事務局を引き受けてくれというお話がありました。東京ではまだ何も経験がないことで、無理ではないかと思いましたが、人から何か頼まれるのはよいことだと考えて、研究室の深町さんと武田さんに協力してもらい、とにかく事務局を開所しました。夏の暑い頃に東中川さんのお世話で、事務引き継ぎをしたのを覚えています。私どもの研究室ではすぐに武田さんに外国出張をしてもらいましたので、実際には深町さんが庶務と会計の両幹事を行ない、1年後には武田さんが転出、かわりに着任した田代さんに会計をもってもらいました。その間いろいろなことがありましたが、個人的に印象深いこととして、安増会長の運転する車で深町さんと共に岡崎の鈴木先生の山の中の家にDGDの古い雑誌の移転のために出かけたことです（安増先生の車は速いことをこの時知りました）。

平成3年の夏には事務局を他所へ移すこともできたかも知れなかったのですが、江口会長から、せっかく慣れたところなのでもう一期務めてくれとのお話もあり、近年では異例のことでしたが、再び事務局をお引き受けすることになりました。この時は田代さんが庶務幹事、浅野さんが会計幹事をやってくれました。この2期めのなかでのできごともしろいろありましたが、大底は田代さんがこなしてくれました。印象に残っているのはブラックウエルの会社とのDGD出版業務に関する交渉でした。また少し心配したのは学会の財政状況でした。

思い出ということで少し筆を動かしてみました。特筆すべきものがそれほど多くあるわけではなく、やはり、はじめにも書きましたように、比較的平穏に事務局が務められたような気が致します。おわりに、関係各位にお礼を申し上げて、幹事長の役を辞任致したいと存じます。どうも長いこと御協力をいただいてありがとうございました。

平成5年12月14日

事務局をお引き受けするにあたって

長 濱 嘉 孝

平成5年10月より、日本発生生物学会事務局が東京大学理学部動物学教室より基礎生物学研究所・生殖研究部門に変わりました。江口会長から依頼され深く考えることもせず引き受けてしまいました。近年の国内外における発生生物学の隆盛とは裏腹に、本学会の財政的危機は深刻なものがあります。このような時に何の打開策を持たない私共が事務局をお引き受けしたのはまさに暴挙ともいえるもので、その軽率さを深く反省するとともに、責任の重大さを痛感している次第です。しかし、一旦お引き受けした以上微力ではございますが、精一杯会長を助け学会のスムーズな運営のためにお手伝いする所存でございます。これまで通り会員数の増加、賛助会員、広告主の増加等は積極的に進めようと思っております。また、年3回発行されますインフォメーション・サーキュラーに関しまして会員同士の情報・意見交換のためのサロンとして、これまでと同様充実させていきたいと考えております。つきましては学会に対する提言、研究雑感、トピック、新しい研究手法の紹介、学会の見聞記、関連集会案内、書評等のような内容でも結構ですので是非事務局にお寄せ下さい。私共の至らなさにために多々ご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、会員の皆様の積極的なご協力のもとに何とか責任を果たしたいと考えておりますので、ご協力の程心よりお願い致します。なお、庶務幹事と会計幹事はそれぞれ当研究部門の田中実、吉国通庸両氏にお願いし、加えて雑務に関して野田喜久代さんにもお願い致しました。会員の皆様、2年間どうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが事務局の移転にあたって懇切丁寧に、そして忍耐強く事務の引継ぎを行っていただいた前事務局の塩川幹事長、田代庶務幹事、浅野会計幹事に深謝致します。塩川幹事長をはじめ深町、武田、田代、浅野幹事の諸先生4年間本当にご苦労さまでした。

DGDの編集主幹を終えるにあたって

片 桐 千 明

1990年以来4年間の編集主幹の任務を間もなく終えます。あと1と月たらずの間に投稿される何篇かの論文を編集幹事に送付するまでのお世話をさせて頂く仕事は残っていますが、これまでご投稿下さった377篇の論文の著者の方々、およびこれらに対する査読の労をとって下さった、それに倍する数の査読者の方々に心から御礼を申しあげます。米田前主幹から編集手順についての詳細且つ丁寧な引継ぎがあったにもかかわらず、米田先生には些細なことまでたびたび相談の電話をかけて煩わせたほか、編集委員の方々には査読者の選択などでバックアップして頂き、何とか大任を果たすことができました。主幹としての判断力・決断力の不足から、論文の改訂や採否について、とも

すれば厳しくする傾向があつてご迷惑をかけた向きもあったことを、この場を借りてお詫び致します。ときには著者と査読者との間で互いに anonymous なまま交わされる論争の仲介役となったこともありましたが、査読意見に応ずるのみならず、それに対して著者が感謝してくださる場合が圧倒的に多く、その度に密かに編集者としての充実感を味わったものでした。ファックスによる交信が日常化し、審査期間の長びく心配なしに査読を外国の研究者に依頼することが容易になったのもこの4年間の特徴のひとつと云えましょう。無鉄砲に一面識もない海外の研究者に一方的に頼んでも1~2の例外を除いて、きわめて誠実に対応してもらえた経験は、DGDの国際的位置付けの確認であるとともに、まさにサイエンスに携わるもののみが味わえる喜びでした。

雑誌の紙面づくりの面では、学会運営委員会を中心に重ねられた論議にもとずいて毎年第3号に載せていた大会講演要旨の掲載を取り止めたことを含めて、各号に原著論文12編篇を収めることが可能になり、採択から印刷までの期間が2~4ヶ月になりつつあります。また、採択された論文原稿のフロッピーディスクを送って頂くことにより校正が迅速になるとともに誤りが少なくなる（誤りはあるとすれば著者原稿にあるのですから）という効果が顕著に出ています。これらは、もっぱら大学印刷と緊密に連絡をとりつつテキパキと仕事を進めている嶋田編集幹事の努力に依るものです。一方、論文著者への別刷の無料配布を100部から50部に減らし、さらに全廃にまで後退せざるを得なくなったのは学会の財政事情によるとはいえ、残念なことです。

この数年の発生生物学会では、DGDの発行が学会の財政を逼迫させる事態をどう打開するかが常に問題とされ続けてきました。この問題が編集内容や業務そのものと直接関わらないのは言うまでもありませんが、その打開策をめぐってDGDのありかたが問われたのも事実でありました。その意味で、1992年はじめに江口会長が会員あてに行ったアンケートの結果は示唆に富むものだったと思います。DGDが確かに積極的に評価されて励まされる一方、閉鎖的な編集委員会構成といった印象をも与えていることが指摘されました。それらを考慮して、今年5月の大会で編集委員会の体制及びメンバー構成を大幅に刷新できるよう条文を改変して頂きました。これにもとづき、星元紀・新主幹のもとでは編集委員会の体制およびメンバーを一新して、文字通り国際誌にふさわしい体制で出発するはずです。

DGDへの投稿論文数は、前主幹の時期に較べて少しずつ減少傾向にあります。オフィスのメールボックスを覗いては、新しい投稿論文があるとホッとするというのが日常でした。この数年いくつかの有力国際誌が衣がえをし、またライバルになりうる雑誌も登場し、わが国の発生生物学が国際化して、これらに投稿する機会がふえることは必然的にわが国の研究者のDGDへの投稿の減少を招くことにも繋がり得ましょう。しかし、新しい時代の動向を反映するとともに古典的な手法や課題に取り組む研究をも重視するというDGDの特性は、国際的に認められつつあり、将来にわたっても十分に生き続き得るものと信じます。4年間の体験から云えるのは、DGDの充実は何にも増して投稿論文数に依存すると云うことです。これが論文間の競争を生み、必然的に質の向上を促す結果をもたらします。投稿者が雑誌の質を決める、ということの意味をいま実感しています。

DGD編集主幹をお引き受けするにあたって

星 元 紀

この度、江口会長からのご指名でDGDの第6代編集主幹をお引き受けすることになった。ご存知のように本誌は *Embryologia* を引継ぐもので、本学会の創立にともない、1969年6月刊行の11巻1号以来、現誌名に改めて本学会により発行されるようになった。誌名の変更は *Developmental Biology* の興隆を先取りしてのことであり、最も早く *Development* を誌名に謳ったものの一つであった。その歴史も程なく4半世紀となるが、10年で季刊から隔月刊となり、20年でA4判化して現在の様式となった。また、82年からは国外にも編集委員を求めている。この間、刊行に直接携わってこられた歴代の編集主幹、編集幹事、編集委員（これらの呼称もまた変化している）や論文審査員の熱意と努力、また歴代の会長をはじめとする学会役員、会員諸氏の熱い支持とによって順調に発展し、国際的にもかなりの位置を占めるに至って久しい。正直なところ、このような雑誌の編集主幹は私には重すぎ、その任に耐え得ないのではないかと躊躇もしたが、この分野の研究者として、また本学会の発展を願う会員として、さらには本誌を利用してきたものとして、微力ながらサービスすべき時であると考え、お引き受けすることにした。

この25年間、とくに最近の10年間における発生物学の変容には目を見張るものがある。本学会大会における演題をみても、その変化はすさまじいばかりである。DGDが得意とする分野と、会員の多数が研究している分野との乖離もすこしずつ目立ちだしている。*Development* 誌の例を持出すまでもなく、この分野の代表的な国際誌もまた大きく変貌し、その間の競争も一段と激化している。このような状況のもとにあって、上のような歴史をもつDGDはいかにあるべきか、またいかに発展させることが出来るのか、大いに思い悩むところである。まことに月並な言いようではあるが、DGDの良き伝統を踏まえながら、さらに質の向上を努めたいと思っている。

DGDの特徴の一つは間口の広さにあろう。今後も、「発生学」をなるべく広く解釈し、現象、材料、手法、表現のいずれにおいても幅広くあり続けたいと考えている。分野がますます細分化する傾向のもとで、間口を広く保ち続けるために副編集主幹 (Associate Editors) を設置することになり、岡田益吉、片桐千明、竹市雅俊の3先生に就任していただいた。原著論文の充実是最優先事項であるが、現代発生学の諸相を展望できるよう、レビューの充実をも図りたい。また、競争の激しい分野からの投稿に応えるためにも、出版までの迅速化に一層の努力をしたい。DGDは当初より国際誌であり、国外からの投稿も質、量、発信地の広がりのいずれにおいてもかなり伸びているが、さらにこの傾向を強めたいと考えている。このためにも、Editorial Boardや、今回新設された Advisory Boardに国外の優れた発生物学者の参加を積極的に求めて行きたい。

言わずもがな事を並べたが、いずれも質の向上と活力の維持にとって必須であると思い、新しい陣容での編集業務の開始にあたり敢えて明記した。もとより、雑誌の質は投稿者と審査員との質、ならびに読者の質によって決る。3者のいずれも、会員諸氏に負うところが大きい。皆様の投稿とご協力を切にお願いしたい。

投稿、忌憚のないご意見などは下記にご連絡願います。

〒227 神奈川県横浜市緑区長津田町4259

東京工業大学生命理工学部生命理学科 星 元紀

電 話 045-922-1111 内線 2481

Fax/電話 045-923-0368

EMail dgdhoshi@nc.titech.ac.jp

日本発生生物学会第27回大会のお知らせ

第27回日本発生生物学会大会は、1994年5月25日－27日に、仙台市民会館で開催されることになりました。皆様のご参加をこころからお待ちしております。

1. 期 日：1994年5月25日(水)－27日(金)

2. 会 場：仙台市民会館 電話番号 (022)262-4721

仙台市青葉区桜ヶ岡公園4番1号

J R 仙台駅から 地 下 鉄 勾当台公園下車 徒歩10分

市 バ ス 市民会館前 (所要15分)

タクシー 約 2.5km 10分

3. 参加申込：

①同封の参加申込書に必要事項を記入して、1994年3月11日（当日消印有効）までにお申し込みください。

②申込先：〒980 仙台市青葉区荒巻青葉

東北大学理学部生物学教室

日本発生生物学会第27回大会準備委員会

③大会参加費：6,000円（学生・院生5,000円）

大会参加費は郵便局の定額小為替で、指定受取人を

仙台市青葉区荒巻青葉 東北大学理学部生物学教室

大槻弘順

として参加申込書とともに書留にてお送りください。

④懇親会を大会第2日目、5月26日に行います。参加をご希望の方は懇親会費5,000円を大会参加費に加算してお送りください。場合によっては、当日の受付ができないこともありますので、できるだけ大会参加申込といっしょにお申し込みください。

⑤同封の受取書の所定欄に名前および必要事項を、また表に郵便番号、住所および氏名を記入し、かならず切手を貼ってください。

⑥問合わせ先：準備委員会 022-222-1800・内線 3476-3478（井出，山本，大槻，田村）

4. 研究発表：

①申込期限：1994年3月11日(金) 当日消印有効

②本大会の研究発表は、口頭発表とポスター展示の併用で行います。発表者はどちらかを選択して申し込んでください。ご希望の発表形式を変更していただくようお願いすることがあるかも知れません。あらかじめご了承ください。

③研究発表の申込者は、(1)同封の参加申込書に必要事項を記入し、(2)発表要旨とともに書留でお送りください。なお、連絡書にも筆頭発表者（演者）名を裏面に、その連絡先を表の宛名欄に記入の上、かならず切手を貼ってお出してください。研究発表は1994年度までの会費納入者に限ります。連名で発表される場合には、筆頭発表者（演者）が申し込んでください。それ以外の方は、参加申込書の所定の欄に筆頭発表者名を記入してください。

④発表要旨の原稿は、そのまま写真印刷します。黒インクで明瞭に書いてください。タイプやワープロの場合には、濃いめにプリントするように気をつけてください。図表も印刷できます。英文タイトル、所属、氏名も所定の欄にご記入ください。

⑤口頭発表：発表時間は15分（発表12分、討論3分）。会場には35mm版（外枠50×50mm）、スライドプロジェクター1台を用意します。スライド枚数は1演題につき10枚以内とします。その他の映写機等の使用をご希望の方は、事前に準備委員会にご相談ください。

ポスター展示：パネルサイズは180cm×180cmです。形式は特に定めませんが、最上段にタイトルを掲示してください。押しピン等は準備委員会で用意いたします。

5. 今回はワークショップの申し込みを受付けております。大会会期中の夜（6:00-9:00）に中小の会議室を数室用意しており、プロジェクターも用意致します。案内をプログラムに載せるため3月11日までに、適当な形式で、ワークショップ名、オーガナイザー名、演者とタイトルを連絡下さい。多数の申し込みを期待しております。

6. 大会準備委員会では、宿泊のお世話はいたしません。主な公的宿泊施設を次頁に載せてあります。詳細は各施設にお問い合わせください。また交通、宿泊の世話をする会社からの案内が本サーキュラーにありますので、ご利用下さい。

発表要旨記入例

チータの発生過程に対するレチノイン酸の作用

定禅寺清子（東北大・理・生物）

Effects of retinoic acid on cheetah development

K. Jouzenji

Biol. Inst., Tohoku Univ., Sendai 980

哺乳類の発生過程はマウスで詳細に調べられているが、大型動物、特に肉食動物の発生過程に関する研究は少ない。我々は、チータ (*Acynonyx jubatus*) を材料に使い、その発生過程を詳細に記載するとともに、それに対するレチノイン酸の作用について調べた。レチノイン酸は様々な生物の発生において、多岐な作用を持つ物質として知られている。

公的宿泊施設（電話の市外局番・仙台022は省略）

KKRホテル仙台（仙台共済会館）（国家公務員等共済組合連合会）

〒980 仙台市青葉区錦町1-8-17 Tel. 225-5201（予約・12月1日より）

勾当台会館（こうとうだいかいかん）（地方職員共済組合）

〒980 仙台市青葉区国分町3-9-6 Tel. 222-3301（予約・一年前より）

ホテル白萩（公立学校共済組合）

〒980 仙台市青葉区錦町2-2-19 Tel. 265-3411（予約・6ヶ月前より）

パレス宮城野（警察共済組合）

〒980 仙台市青葉区上杉3-3-1 Tel. 265-2223（予約・3ヶ月前より）

仙台弥生会館（JR共済組合）

〒980 仙台市青葉区五橋1-1-1 Tel. 227-9515（予約・3ヶ月前より）

ホテル仙台ガーデンパレス（市立学校教職員共済組合）

〒980 仙台市宮城野区榴岡4-1-5 Tel. 299-6211（予約・11ヶ月前より）

国際発生生物学会第12回大会に出席して

筑波大学生物科学系 小林 悟

1993年8月8日から13日にかけての6日間、オーストリアのウィーン郊外にある国際会議場において国際発生生物学会第12回大会が開催された。本大会では、124の講演の他に413のポスター発表が行われ、参加者名簿で見ると約850名、それ以外の参加者を合わせると優に千人を超える研究者が世界各国から集まった。国際的に知られた著名な研究者に加え、特に目を引いたのは、20代から30代にかけての若手研究者の多さで(私もその中の一人ではあるが)、いずれの研究者も質の高い研究発表を行っており、今後の発生生物学の流れを作る気概に溢れていた。

本大会では、15のセッションに分かれて、体軸決定における勾配、神経発生、発生における場と境界、細胞周期、胚誘導、肢の発生、細胞死、性決定、血球分化、ゲノミックインプリンティング等の発生生物学の主要なテーマについて研究発表が行われた。今回の大会では、発生学の新たなテーマと呼べる際だった発表はなかったが、実験発生学の時代に発見された重要な現象のほとんどが、分子レベルの研究対象となったことを確認できた。特に、二重勾配説で有名なウニにおける細胞系譜の決定機構を解明するため、特定の細胞系譜で発現する遺伝子の発現調節機構について研究しているカリフォルニア工科大学のDavidson博士、古典的な胚誘導の現象を忠実に分子の言葉で語ろうとしたWellcome/CRC研究所のGurdon博士の発表は印象に残った。また、多くの動物の発生過程で重要な役割を演じている細胞死の問題も遺伝子レベルで解析できる段階まで発展してきた感がある。さらに、数年前まではショウジョウバエのパターン形成で名を馳せていたマックスプランク研究所のNüsslein-Volhard博士が、ゼブラフィッシュを材料として、脊椎動物におけるパターン形成機構の解析を開始しているのも印象深かった。ショウジョウバエとゼブラフィッシュはいずれも遺伝学的手法を駆使できる実験動物であり、“発生遺伝学的手法は発生過程を解析する上で必要不可欠”という彼女の信念をかい間見ることができた。Nüsslein-Volhard博士の辿った道には、重要な遺伝子は1個たりとも落ちていないのではなかろうか。突然変異を用いた解析は、植物の花の形態形成機構の解析を行っているカリフォルニア工科大学のMeyerowitz博士の研究においても威力を発揮していた。

学会終了後、ドナウ河の川下りを岡田益吉教授と大学院の遠藤君と楽しむことができた。ドナウ河は、伝統的な小さな町や数100年を経た古城が建つ丘の間をすり抜け、近代的な都市ウィーンまで力強く流れていた。このドナウの流れは、発生生物学の流れを象徴しているように思える。古典的な記載発生学、実験発生学から発した流れは分子生物学の技術を取り込みさらに大きくなってきた。このことは、本大会の優れた研究発表のほとんどが実験発生学の流れの中で発見された興味深い現象に根ざしていることから明らかである。今後、この流れがどの方向へと導かれるのか、また、同時に私自身の生殖系列分化の研究がどの様に発展していくのか楽しみは尽きない。次の国際発生生物学会は4年後アメリカで開催される。

公益信託・成茂動物科学振興基金助成金の決定について

公益信託・成茂動物科学振興基金・平成5年度研究助成金が以下のように決定しました。

研 究 者	所 属	助成金額
雨宮 昭南	東 京 大 学	60
幸島 司郎	東京工業大学	60
小島 茂明	東 京 大 学	60
代谷 陽子	和洋女子大学	60
土屋 禎三	神 戸 大 学	60
沼田 英治	大阪市立大学	60
峰雪 良宣	広 島 大 学	60
柳 明	石巻専修大学	60万円
8 件		480万円

公益信託・成茂動物科学振興基金運営委員会
委員長 平本 幸男

アジア学術会議 11月に開催

平成5年10月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、アジア学術会議、本年6月に開議了解を得ました平成6年度日本学術会議共同主催国際会議の概要及び日本学術会議が本年度において実施する地域活性化施策推進事業等についてお知らせします。

アジア学術会議について

- 1 日本学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者を東京に招き、本年11月15日（月）から18日（木）までの4日間、アジア学術会議を開催します。
- 2 アジア地域との学術分野における交流の重要性については、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」（平成5年4月、日本学術会議第116回総会採択）においても指摘されたところですが（「日本学術会議だより」（No29）参照）、地理的、歴史的、文化的に多くの共通点を持つ近隣諸国間の交流は、それぞれの国の学術の発展、ひいてはその地域全体の学術の発展にとって極めて重要なことであります。
- このことから、日本学術会議は、アジア地域の各国における学術研究の現状について情報交換を行うとともに、アジア地域における学術研究分野での連携・協力の在り方などについて討議し、併せてアジア地域の学術研究者間の相互理解と信頼を深めることを目的として、本年度からアジア学術会議を開催することとしました。
- 3 このアジア学術会議は、特定分野に限らない全学問領域にわたるアジア地域の科学者による連携・協力のための初の国際会議であり、その意義は極めて大きく、日本学術会議では、会議の成果をあげるため、既に本年4月、アジア学術会議実行委員会（委員長：渡邊格・日本学術会議副会長、副委員長：川田侃・同副会長）を設置し、関係学協会との御協力の下、開催に向け、鋭意、準備を進めているところです。

会議の概要は以下のとおりです。

- (1) 主催
日本学術会議
- (2) 日程
11月15日（月）開会式（基調講演、特別講演等）
歓迎レセプション
16日（火）会議（自由討議）
17日（水）視察（筑波研究学園都市）
18日（木）会議（自由討議）、閉会式
- (3) 会場
三田共用会議所
〔東京都港区三田2-1-8〕
電話 03-3455-7591
- (4) 参加者
インド、インドネシア、シンガポール、タイ、大韓民国、中華人民共和国、日本、フィリピン、マレーシアの各国の学術推進機関（アカデミー等）から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者21名

（日本からは、近藤次郎日本学術会議会長及び川田侃同副会長が出席の予定）

(5) 議題

「アジア地域における学術の発展とそのための連携・協力について」

平成5年度地域活性化施策推進事業の実施について

—地域の過去、現在、未来を探る—

東京一極集中を是正し、国土の均衡ある発展を図るため、地域を活性化することの必要性が叫ばれています。この中で、地域において、情報発信能力を高め、産業技術の進歩、暮らしの質的向上を促す総合的な学術研究の力の向上は、「豊かな国民生活」を実現するために不可欠のことであり、また、国際的に開かれた地域を形成するためにも有効なことと考えられます。このため、日本学術会議では、本年度において、国土庁の地域活性化施策推進費を活用して、全国3か所での地域における産学官の協力による公開フォーラムの実施とその報告書作成を柱とする“ふるさと学会”開催事業を実施することとしました。

本事業は、地域を対象とする学術研究の成果を人文、社会、自然科学を網羅して総合的に取りまとめ、その地域の過去の歴史、現在の状態、将来の予想を明らかにし、地域のアイデンティティと将来像を考える一助とするともに、この過程において、地域の産学官の連携や学術研究者と地域住民の交流をも促進することを狙いとするモデル事業と位置づけています。

平成6年度に開催する日本学術会議共同主催国際会議

日本学術会議は、昭和28年9月の国際理論物理学会議の開催以来、平成5年度までに135件の国際会議を関係の学術研究団体と共同して開催し、我が国のみならず世界の学術水準の向上に努めてきたところです。

平成6年度においても、次表の6会議を共同主催することとし、本年6月25日、これらの国際会議の開催とこれについて所要の措置を講ずる旨の閣議了解を得ました。

また、本年は、平成8年（1996年）度開催分の国際会議について共同主催の申請を受け付けており、締切りは12月10日です。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局学術部情報国際課国際会議係
電話03-3403-6291(内)254、255

平成6年(1994年)度日本学術会議・国内学術研究団体共同主催国際会議概要

会 議 名	第8回国際神経・筋学会	第24回国際園芸学会	第30回錯体化学国際会議
母 体 機 関	世界神経連合	国際園芸学会	国際純正・応用化学連合
共 催 団 体	日本神経学会	園芸学会	(社)日本化学会 錯体化学研究会
参加予定人数 参加予定国数	国外 1,100人 国内 800人 計 1,900人〔41か国・2地域〕	国外 1,000人 国内 750人 計 1,750人〔88か国・2地域〕	国外 300人 国内 700人 計 1,000人〔46か国・2地域〕
開 催 時 期	7月10日～15日(6日間)	8月21日～27日(7日間)	7月24日～29日(6日間)
開 催 場 所	京都市(国立京都国際会館)	京都市(国立京都国際会館)	京都市(国立京都国際会館)
開 催 間 隔	4年ごと	4年ごと	1ないし2年ごと
組織委員会 委 員 長	国立精神・神経センター 名誉総長 里 吉 栄二郎	東京農業大学農学部 教授 岩 田 正 利	(準備委員会代表者)立命館大学理工学部 教授 大 瀧 仁 志

会 議 名	第21回世界心電学会	第47回国際情報ドキュメンテーション連盟総会	第2回国際病態生理学会総会
母 体 機 関	世界心電学会	国際情報ドキュメンテーション連盟	国際病態生理学会
共 催 団 体	日本心電学会 (財)日本心臓財団	(社)情報処理学会 (社)情報科学技術協会 情報知識学会	日本病態生理学会
参加予定人数 参加予定国数	国外 500人 国内 1,000人 計 1,500人〔30か国〕	国外 400人 国内 800人 計 1,200人〔55か国・1地域〕	国外 500人 国内 800人 計 1,300人〔62か国・2地域〕
開 催 時 期	7月3日～7日(5日間)	10月2日～9日(8日間)	11月19日～24日(6日間)
開 催 場 所	横浜市(横浜国際平和会議場)	大宮市(大宮ソニックシティ)	京都市(国立京都国際会館)
開 催 間 隔	毎年	2年ごと	4年ごと
組織委員会 委 員 長	国立療養所中野病院 病院長 春 見 建 一	国文学研究資料館 客員教授 藤 原 鎮 男	日本臓器製薬株式会社生物活性科学研究所 所 長 大 村 裕

日本学術会議主催公開講演会

—— 女性科学研究者に期待する ——

日本学術会議は、学術の成果を国民に直接還元するための活動として、日本学術会議会員が講師となって、市民を対象に年3回公開講演会を開催しています。

この度、次の公開講演会を開催しますので、お知らせします。多数の方々の御来場をお待ちしています。

- (1) 日 時 平成5年11月26日(金) 13:00～16:30
- (2) 会 場 日本学術会議講堂
(地下鉄千代田線「乃木坂駅」下車徒歩1分)
- (3) テーマ 「女性科学研究者に期待する」
- (4) 演題及び演者

- ・女性科学研究者問題に関する日本学術会議の取組
須藤 一 (第5部会員、東北学院大学工学部教授)
- ・女性学ジェンダー論の発展と役割
加藤春恵子 (第1部会員、東京女子大学現代文化学部教授)
- ・自然科学分野に見られる女性進出とこれに伴う諸問題
本 間 慎 (第6部会員、東京農工大学農学部教授)

・女性科学研究者の地位向上と基盤整備(スウェーデンを例として)

一番ヶ瀬康子(第1部会員、日本女子大学人間社会学部長)

〔申込方法〕

聴講(入場無料)を希望される方は、はがきに、郵便番号、住所、氏名を明記し、11月12日までに下記までお申し込みください(複数人の連記可、FAX送付可)。締切り後も、席に余裕があれば、受け付けますので、下記までお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34
日本学術会議事務局「公開講演会係」
TEL 03-3403-6291(代) 内線228
FAX 03-3403-6224

「日本学術会議だより」について御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34
日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

「第1回肝細胞研究会」ご案内

< 演題募集 >

過去9年間にわたり続けてきました「初代培養肝細胞研究会」を発展的に肝細胞研究会と改称し、下記のように「第1回肝細胞研究会」を開催致したのご案内申し上げます。

これまでは初代培養肝細胞を対象とした研究のみに限定していましたが、今回からは肝臓の構築と機能に関する非実質細胞を対象とした研究まで範囲を広げ活発な討論の展開を期待しております。

多数の皆様の御参加をお待ち申し上げます。

日時	1994年6月3日(金)～4日(土)
場所	順天堂大学有山記念講堂(お茶の水駅より徒歩5分) 東京都文京区本郷3-1-3
参加費(当日受付)	
大学関係者・官公庁・研究所	: 4,000円
企業関係者	: 8,000円
学生	: 2,000円
懇親会会費	: 6,000円

【演題申込について】

発表予定の方は、事務局までハガキまたはFAXにて演題申込用紙をご請求下さい。演題数にもよりますが、今回は全て口演で行う予定です。同一研究者による複数の演題提出には優先順位をお付け下さい。

【締切日】 1994年3月18日(金) (必着)

【送付先】 〒227
横浜市緑区長津田長4259
東京工業大学・生命理工学部・生体分子工学科
赤池研究室内
肝細胞研究会事務局 宛
TEL 045-922-1111 (内 2555)
FAX 045-921-7854

尚、各種お問い合わせは、極力、ハガキまたはFAXをお願い致します。

世話人代表
東京工業大学
生命理工学部・生体分子工学科
赤池 敏宏

会 員 異 動

<新入会員>

(氏 名)	(所 属)	(住 所)	(①テーマ, ②材料)
長谷川昭子	兵庫医科大学産婦人科 学	〒663 西宮市武庫川町1-1	①受精と初期発生 ②哺乳動物
山本 博章	東北大学理学部生物学 科	〒989-32 仙台市青葉区南吉成 1丁目12-7	①色素細胞における遺伝子 発現とその系統解析 ②動物一般(マウス)
山本 雅之	東北大学医学部第二医 化学	〒980 仙台市青葉区星稜町 2-1	①血液細胞の分化 ②ヒト・マウス・ニワトリ
西田 育巧	愛知県がんセンター研 究所・放射線部	〒464 名古屋市千種区鹿子殿 1-1	①シグナル伝達機構と発生 ②ショウジョウバエ
服田 昌之	国立遺伝学研究所	〒411 三島市谷田1111	①動物の形態形成・細胞接着 ②ヒドラ

<住所・所属変更>

(氏 名)	(所 属)	(住 所)
羽地 達次	九州歯科大学・口腔解剖学講座第一	〒803 九州市小倉北区真鶴2-6-1
竹内 拓司	クラスタ・コア日本遺伝子研究所	〒983 仙台市宮城野区燕沢東3-11-18
猪山 賢一	熊本大学大学院・脳・免疫統合科学 系神経分化学講座	〒862 熊本市九品寺4-24-1
八木 静夫	徳島大学・総合科学部・自然システ ム学科・生命科学	〒770 徳島市南常三島町1-1
中西 康夫	大阪大学・教養部・生物学教室	〒560 豊中市待兼山町1-1
沢田美智子	通産省・工業技術院・北海道工業技 術研究所・低温生物化学部生物化学 研究室	〒062 札幌市豊平区月寒東2条17丁目2-1
(学)清本 正人	お茶の水女子大学・理学部・生物学 教室	〒112 東京都文京区大塚2-1-1
(学)渡辺 明彦	山形大学・理学部・生物学教室	〒990 山形市小白川町1-4-12

<逝 去>

宇和 綾
梶山 正雄

(受付順)

〔賛助会員〕

生物学・生態学洋書のことならグリーン洋書(株)	〒 210	川崎市幸区塚越 2-260 TEL 044-533-0470
生命誌研究館	〒 569	高槻市紫町 1-1 TEL 0726-81-9750
三菱化成生命科学研究所	〒 194	町田市南大谷11 TEL 0427-24-6226
明治乳業(株)ヘルスサイエンス研究所	〒 250	小田原市成田540 TEL 0465-37-3661
試薬及び理化学機器販売の理科研(株)	〒 463	名古屋市守山区元郷 2-107 TEL 052-798-6151
科学の技術に奉仕する理工学社	〒 113	文京区本駒込 5-9-10 TEL 03-3928-5211
次代を担うバイオテクノロジー和研薬(株)	〒 606	京都市左京区北白川西伊織町25 TEL 075-721-0491

(50音順)

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会

会長 江口 吾朗

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生活学者を混じえて約900名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますようお願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局

〒444 岡崎市明大寺町西郷中38

基礎生物学研究所 生殖研究部門内

日 本 発 生 生 物 学 会

TEL (0564) 55-7550 FAX (0564) 55-7556

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(口 円)

住 所

会 社 名

印

担当者名
電話番号

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約900人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は、日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,000部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料			
D G D 本誌	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年 3 回	30,000円
サーキュラー	半 頁	〃	15,000円

申し込み先：日本発生生物学会事務局

〒444 岡崎市明大寺町西郷中38

基礎生物学研究所 生殖研究部門内

日 本 発 生 生 物 学 会

TEL(0564)55-7550 FAX(0564)55-7556

-----切 り 取 り 線-----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ D G D 本誌	1 頁
☐ 〃	半 頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

日本発生物学会 第27回大会

宿泊・航空券のご案内

平成6年5月25日(水)～27日(金)の3日間、仙台市におきまして、「日本発生物学会」が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。
つきましては、学会に参加の皆様のご便宜を図る為、宿泊・航空券のお世話を(株)ニッポンツーリストビューローが取り扱わせて頂くことになりました。
会員の皆様お誘い合せのうえ、多数ご利用下さいますようご案内申し上げます。

1 宿泊のご案内

宿泊の取扱期間

平成6年5月24日(火)～27日(金)

ホテルクラス	利用予定ホテル	部屋タイプ	宿泊料金	記号
A 都市ホテル	ホテル 仙台 プラザ 仙台東急ホテル 又は同等クラス	シングル	12,500～15,000	A-1
		ツイン	11,500～13,500	A-2
B ハーフビジネスホテル	三井アーバンホテル 仙台 ホテル法華クラブ 仙台 又は同等クラス	シングル	9,500～11,000	B-1
		ツイン	8,500～10,500	B-2
C ビジネスホテル	ホテル 仙台 ゴールデンパレス 仙台第1ワシントンホテル 又は同等クラス	シングル	8,000～9,000	C-1
		ツイン	8,000～9,000	C-2
D エコノミーホテル	ホテル メイフラワー 仙台 又は同等クラス	シングル	6,500～8,000	D-1
		ツイン	6,500～8,000	D-2

※宿泊料金は、1泊朝食付税金サービス料込みのお一様です。(朝食不要の場合も同じ料金)

※ツインルームをご利用の方は、同室の方のお名前も備考欄にご記入下さい。

※ご希望のホテルクラスが満室の場合は、他のホテルクラスに変更させていただきますので、第2希望もご記入下さい。

2 航空券のご案内

学会の日程に合わせ航空便を設定いたしました。

発着地	ご 出 発 便				お 帰 り 便				往復割引運賃 R T	普通 運賃 O W
	搭乗日	出発 時間	便 名	記号	搭乗日	出発 時間	便 名	記号		
大 阪 OSA	5 / 24	18:00 頃	ANA 739	あ	5 / 27	18:00 頃	ANA 740	ア	42,300円	23,400円
	5 / 25	8:00 頃	ANA 731	い	5 / 28	9:00 頃	ANA 732	イ		
札 幌 SPK	5 / 24	18:00 頃	ANA 730	う	5 / 27	18:00 頃	ANA 729	ウ	34,820円	19,250円
	5 / 25	9:00 頃	ANA 722	え	5 / 28	10:00 頃	ANA 723	エ		
福 岡 FUK	5 / 24	14:00 頃	JAS 933	お	5 / 27	16:00 頃	JAS 934	オ	59,840円	33,150円
	5 / 25	9:00 頃	JAS 931	か	5 / 28	10:00 頃	JAS 932	カ		
名古屋 NGO	5 / 24	17:00 頃	JAS 463	き	5 / 27	19:00 頃	JAS 464	キ	34,820円	19,250円
	5 / 25	9:00 頃	JAS 461	く	5 / 28	11:00 頃	JAS 462	ク		

※小松・広島・沖縄便及び接続乗り継ぎ便につきましては、備考欄にご記入下さい。

※出発時間は、表記時間の前後それぞれ30分～60分以内を予定いたしております。

※仙台空港～仙台駅の交通機関

★バス 50分・780円 ★タクシー 45分・5,000円ぐらい

3 お申し込み方法

添付のお申し込み書に必要事項をご記入のうえ、(株)ニッポンツーリストビューロー迄郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

①お申し込み受付期間

平成 6年 4月 22日(金)まで

※締め切り後も受付いたしますが、ご希望に添えない場合もございます。

②変更・取り消しについて

お申し込み後、お客様のご都合で変更又は取り消しされる場合は、一名様に付き下記の変更料又は取り消し料を頂きます。

☆航空券

☆ホテル

☆変更手数料

一名様一件につき 1,000円を頂きます。

取り消し時刻 片道運賃	出発の3日前から 出発時刻まで
10,000円以上 20,000円未満	2,000円
20,000円以上 30,000円未満	3,000円
30,000円以上	4,000円

取り消し料 取り消し日	ホテル宿泊料の 下記パーセント
9日前	10%
前日	20%
当日	80%
無連絡	100%

●尚、発券払戻料(航空券1枚につき)として、410円を頂きます。

③宿泊券・航空券の送付について

ご出発の10日～25日前までに宿泊券・航空券・ホテルパンフレットをお手元にご送付致します。

④お支払い・発送通信料について

宿泊券・航空券送付時にご請求書と郵便払い込み通知票を同封致しますので、3日以内にお振込下さい。

尚、発送通信料としてお一人様一律 500円を申し受けます。

⑤お申し込み・お問い合わせ

(株)ニッポンツーリストビューロー (宮城県知事登録国内旅行業第69号)

「日本発生物学会 第27回大会」係

〒980 宮城県仙台市青葉区一番町二丁目8-21 秋山ビル1F

☎ 0120-36-4531 (フリーダイヤル) 受付時間: 平日9:00~18:00

FAX 022-221-4534 担当: 千葉 土曜9:00~15:00

-----キ-----リ-----ト-----リ-----セ-----ン-----

日本発生物学会 第27回大会 (申し込み書)

フリガナ			勤務先	TEL						
クーポン送り先 氏名			住所	送付先	TEL					
フリガナ	性別	宿泊ホテルクラス				航空		備考		
氏名	年齢	希望日	24	25	26	27	往路便			復路便
(例) ダテ マサムネ	(M)・F	第一	A-1	A-1	A-1		あ	ア		
伊達 政宗	60才	第二	B-1	B-1	B-1					
①										
②										
③										

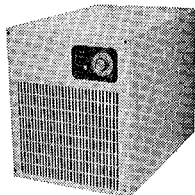
生物研究関連機器 <恒温装置・環境装置>

AQUA

加熱冷却ユニット

クーラー・ヒーターはチタン製。淡水はもちろん海水や薬品液にも使用できる高性能の循環式小型加熱冷却装置です。

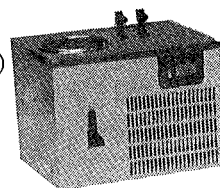
形式	クーラー	ヒーター	概略水量	価格
HC061A-3	65W	300W	120ℓ	¥213,000
HC101A-3	100W	300W	160ℓ	¥225,000
HC131A-5	130W	500W	260ℓ	¥239,000
HC201A-5	200W	500W	360ℓ	¥258,000
HC301A-5	300W	500W	670ℓ	¥321,000
HC401A-5	400W	500W	1000ℓ	¥360,000



低温恒温循環水槽

実験台上でも使用できるように極めてコンパクトにまとめた低温恒温循環水槽です。水温は低温から高温までを任意に設定することができます。外部循環機能をそなえておりますので恒温水槽のほか、カラムの冷却、保温など幅広い用途があります。

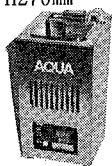
形式:CT 65-300-S
使用温度範囲:0~50℃(±0.1℃)
外形寸法:W420×D330×H340mm
槽内寸法:φ153×H187mm
冷凍機:65W ヒーター:300W
価格:¥250,000



超小型ウォーターバス式インキュベーター

極めてコンパクトにまとめた超小型の恒温槽です。50ml程度のピーカーや小型の試験管数本の恒温を得る用途に適しています。

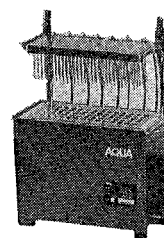
形式:CTH-100(加熱専用型)/CTC-100(加熱冷却型)
外形寸法:146×176×h225mm/146×176×h270mm
温度範囲:室温+5~60℃ / +5~60℃
温度精度:±0.05~±0.1℃
槽材質:ステンレス SUS304
槽内寸法:98×100×h59mm
本体価格:¥98,000/¥168,000



ゼットコンデンサー

空気または窒素ガスを試験管内に吹きつけ、溶媒の蒸発を促進し、濃縮時間を短縮する装置です。

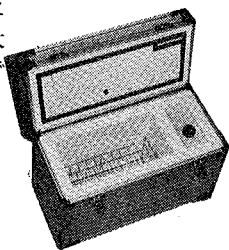
形式:JC 70-300
外形寸法:350×191×h540mm
槽内寸法:300×120×h70mm
温度範囲:室温~100℃±0.4deg
吹出ノズル本数:70本
ヒーター:300W
空気ポンプ:20W
電源:100V
価格:¥310,000



恒温コンテナー

蓄冷体の融解速度を微量にコントロールして恒温を保つ小型の恒温輸送用コンテナーです。凍結したら困るあらゆる物体の低温での恒温輸送に威力を発揮します。商用電源、大型バッテリーを使用しないので可動性に富みどこでも使えます。

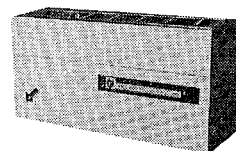
形式:CTC-422
外形寸法:407×193×H298mm
庫内寸法:246×122×H200mm
コントローラー:デジタル設定, デジタル表示
価格:¥88,900(蓄冷体-5℃付)



温度勾配装置(ウォーターバス)

温度調節水槽はそれぞれ独自の温度に設定できます。精度の高い恒温が得られます。温度の設定はデジタル式。振とう装置付きもあります。

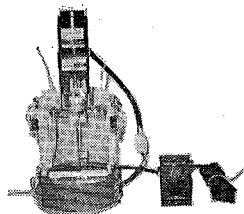
形式:TGW-3(三連)/TGW-5(五連)
使用温度範囲:0~50℃
温度調節精度:±0.05~±0.1℃
槽内寸法:150×260×150×3/×5
冷凍機:200W/300W
ヒーター:90W×3/×5
価格:¥788,000/¥970,000



本城式プランクトン濃縮装置

プランクトンを効率よく回収する装置です。プランクトン細胞の崩壊が少なく、低濃度で分布している種類を観察することができます。ろ過水はプランクトンの体液が混入しない純水なものが得られます。ろ紙の表面は目詰まりしにくく早い流速が得られます。

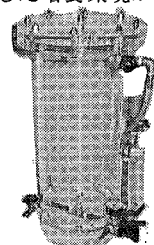
形式:PC15-S
回収率:80~95%
価格:¥98,000



加圧式インキュベーター

空気または不活性ガスで加圧した環境下で各種生物を培養する装置です。新鮮な空気を常に供給しながら一定圧を保つことができますので安定した培養環境が得られます。

形式:PI 203
最大使用圧力:2.5kg/cm²
内寸法:φ190×h440mm
外形寸法:φ280×h530mm
本体材質:透明アクリル
価格:¥198,000(加圧ポンプは別)
給水装置 減圧弁・安全弁付



アクア株式会社

〒141 東京都品川区西五反田2-10-8

TEL. 03-3495-5668 / FAX. 03-3495-5688

生細胞の染色に

細胞蛍光標識キット

Cell Linker Technology に基づく細胞染色法で、細胞膜に高親和性を持つ新しいタイプの蛍光色素PKH2またはPKH26 蛍光色素と希釈液とを組み合わせた、細胞蛍光標識キットです。

細胞機能に影響しません

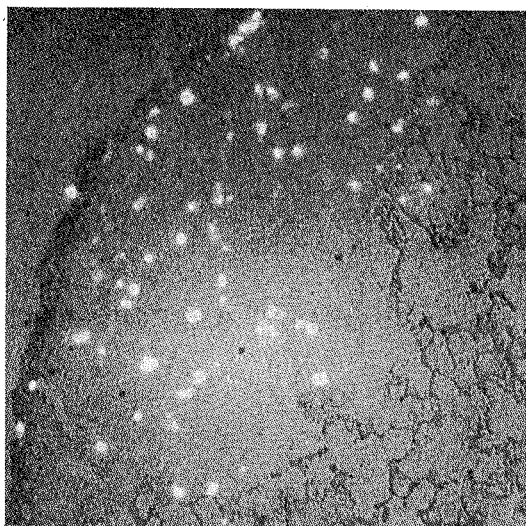
細胞と数分間混合するだけで、生細胞をその機能を損うことなく染色可能で、細胞の移動や増殖のモニタリングに大きな威力を発揮します。

簡便です

従来 ^{51}Cr 等を用いて行われていた LAK 細胞のモニタリングや NK 活性の測定が簡便に、しかも安全に行うことができます。

安定です

ウサギ赤血球を標識した場合、PKH26 では in vivo でその溶出の半減期が100日以上を示し、長期のモニタリングが可能です。



Tumor Localization of PKH26 Labeled TILs.

マウス肺癌組織に浸潤している、PKH26で染色した IL-2 処理リンパ球が観察されます。

Photo Courtesy of
Drs. Per Basse & Ronald H. Goldfarb
Pittsburgh Cancer Institute, Pittsburgh, PA

発売元



大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164 (代表)
東京 (03) 3828-6544 (代表)

マウスのテラトーマ

—EC細胞による哺乳動物の実験発生学—

森脇和郎／序

野口武彦 村松 喬／編集

定価 3914 円(税込)A5判・296頁・並製

テラトーマの生物学的な知識、EC細胞の種類と成立、EC細胞を用いた初期胚の細胞生物学・分子生物学的研究、EC細胞のキメラ動物への応用などについて、研究の進展を紹介し、その理論と実験技術を解説してあります。

哺乳動物の初期発生

—基礎理論と実験法—

妹尾左知丸 加藤淑裕 入谷 明

鈴木秋悦 館 郷／編集

定価 15450 円(税込)B5判・480頁・上製

初期発生の基礎理論をはじめに説明し、ついで初期胚を研究対象とする主要な実験研究法を解説してあります。生命現象研究へ大きな手がかりとなる本書は、医学・生物学・農学・薬学を専攻する研究者の必携の書です。

体細胞遺伝学

山根 績 岡田善雄 堀川正克 黒木登志夫／編集

定価 10094 円(税込)A5判・720頁・上製

HVJによる細胞融合法、薬物や放射線、化学物質を用いた細胞の突然変異による研究、あるいは遺伝子組換え法を使った研究等体細胞遺伝学研究の最前線をまとめたモノグラフィー、医学・生物学・農学・薬学研究に絶好の参考書です。

理工学社

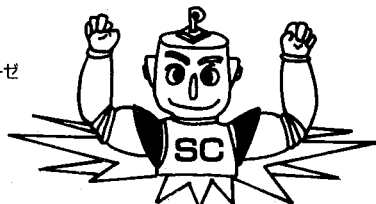
東京都文京区本駒込5-9-10 電話 03(3828)5211(代) 振替口座番号 東京1-34676 〒113

MERCK 社製 プロテアーゼ阻害剤

Pefabloc SC

ベファブロックSC

ほとんどすべてのセリンプロテアーゼを迅速かつ効果的に阻害します。



化学名 4-(2-Aminoethyl)-benzenesulfonyl Fluoride・Hydrochloride

PMSFや
DFPと比べて

低毒性 マウス：LD₅₀ 2800mg/kg

中性で安定 半減期(pH7.0, 22℃)：20時間

水に易溶 20g/100ml

Cat.No.	製品名	包装
24839-1M	Pefabloc SC ベファブロック SC	生化学用 (冷) 100mg

※詳細は下記までお問い合わせ下さい。

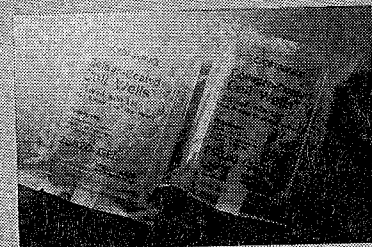


関東化学株式会社
試薬事業本部

本社／〒103 東京都中央区日本橋本町3-2-8 ☎03(3663)7631
大阪／〒541 大阪市中央区瓦町2-5-1 ☎06(222)2796
福岡／〒812 福岡市博多区山王1-1-32 博多堀池ビル ☎092(414)9361

CORNING BETTER SURFACE PRODUCTS

コーティングの時間と
コンタミネーションの不安を解消



■ファイブロネクチンコート製品

コードNo.	規 格	培養面積	個/パック	個/外面
25000FN	ディッシュ 35φ	9cm ²	10	60
25010FN	ディッシュ 60φ	21cm ²	10	40
25020FN	ディッシュ 100φ	55cm ²	10	40

○ウシ血漿由来ファイブロネクチン

■コラーゲンコート製品

コードNo.	規 格	培養面積	個/パック	個/外面
25000COLI	ディッシュ 35φ	9cm ²	10	200
25010COLI	ディッシュ 60φ	21cm ²	10	200
25020COLI	ディッシュ 100φ	55cm ²	10	120
25810COLI	マイクロプレート6F	9.4cm ²	1	20
25820COLI	マイクロプレート24F	2cm ²	1	20
25860COLI	マイクロプレート96F	0.32cm ²	1	20
25100COLI	フラスコ 25cm ³	25cm ²	10	60

○ブタ腱由来酸可溶性TypeIコラーゲン

■ゼラチンコート製品

コードNo.	規 格	培養面積	個/パック	個/外面
25000GEL	ディッシュ 35φ	9cm ²	10	200
25010GEL	ディッシュ 60φ	21cm ²	10	200
25020GEL	ディッシュ 100φ	55cm ²	10	120
25810GEL	マイクロプレート6F	9.4cm ²	1	20
25820GEL	マイクロプレート24F	2cm ²	1	20
25860GEL	マイクロプレート96F	0.32cm ²	1	20
25100GEL	フラスコ 25cm ³	25cm ²	10	60

○豚皮由来ゼラチン

ご使用に先立ちサンプルによる事前チェックをおすすめします。35%ディッシュ・サンプルパックを用意しておりますのでご希望の方は本社又は下記支店へご連絡下さい。

岩城硝子株式会社

本社第3営業部 〒100 東京都千代田区丸の内3-2-3 ☎03(214)6221(直)
 ●大阪支店 ☎06(362)6291(代) ●名古屋支店 ☎052(211)3855(代)
 ●九州支店 ☎092(451)5606(代) ●広島支店 ☎082(248)0293(代)
 ●札幌営業所 ☎011(221)3477(代)